

*Contents*

【全体動向】 水田湿地と田んぼの生物多様性ワークショップ・農林部に抗議する声明書

【iCOOP 生協連合会】第8回総代会と名称の変更・ラムサール COP10と田んぼの生物多様性シンポ

【韓国女性民友会生協】第9回通常総代会・マウルの集い「衿川マウルモイム」

【生協全国連合会】ドゥレ生協連合の親環境農産物消費促進を図る社会協約調印式・「社会的経済と協同組合運動の展望」の討論会

【ハンサルリム】季刊「サルリム物語」の創刊

【全体動向】

「水田湿地と田んぼの生物多様性に関する共同ワークショップ」が開催されました

2月15日、環境農業団体と生協陣営の共同主催による「水田湿地と田んぼの生物多様性に関する共同ワークショップ」が開催され、生産者と各組織の担当者41名が参加しました。主催団体は、生協全国連合会、韓国女性民友会生協、ハンサルリム、iCOOP生協連合会（旧韓国生協連合会）、住民生協、正農会、ソウルウリ農業支援運動、フクサルリム、韓国農漁村社会研究所、環境農業団体連合会です。このワークショップの狙いは、水田湿地と田んぼの生物多様性・田んぼの生きものの調査活動への理解 第10回ラムサール条約締結国会議（韓国昌原市）に向けた環境農業団体の連帯活動のあり方 生物多様性を育む有機稲作の普及についてでした。各参加者はそれぞれのテーマについて報告を聞いた後、ラムサール総会に向けての今後の連帯活動について討論を行いました。[http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo\\_table=event\\_act&wr\\_id=418](http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=event_act&wr_id=418)

親環境農産物の流通活性化支援事業を韓米 FTA 批准に関連付けたことに対して抗議しました

2月13日、生協陣営は「消費地における親環境農産物流通の活性化支援事業への参加を拒否する」という声明書を発表しました。韓国農林部は、2007年から都市での親環境農産物の流通活性化支援事業を企画し、親環境農産物の販売を主に担っている生協陣営にも参加を促しました。2008年からは、都市消費地に親環境農産物の販売所が出店する場合その費用の一部を支援するということです。しかし、今年に入ってから農林部は、国会に提出する事業案に、この支援事業（予算3,895億ウォン）は韓米 FTA の批准が成立した後に執行するという条件を付け足したことを申請団体に通報しました。今まで生協陣営を含めた多くの環境農業団体は、わが国の農業の保全と食品安全のために、韓米 FTA の批准に強く反対してきました。しかし、韓米 FTA の批准後にこの支援事業が執行されるということは、国会での批准に協力せよということであり、韓米 FTA の成立を前提にその衝撃を和らげるための方策に過ぎないことと考えられます。その事実を確認した生協陣営は声をそろえて農林部の姿勢に強く抗議し、韓米 FTA 批准という条件のある限り、この事業には参加しないことを明らかにしました。また、親環境農産物の流通の活性化と消費者の負担軽減のために、この支援事業を韓米 FTA 批准とは関係なく実施することを要求するという立場を明確にしました。

\* 意見表明団体：環境農業団体連合会、生協全国連合会、ハンサルリム、韓国生協連帯、韓国女

性民友会生協、カトリック農民会

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=coop&sno=146>

## 【iCOOP生協連合会 <http://www.icoop.kr>】

### 韓国生協連合会は、名称を「iCOOP 生協連合会」に変更しました

1月29日、韓国生協連合会の第8回総代会が開かれました。第1部では記念式と表彰式が行われ、去る1年間の活動が評価された組合、組合員、職員への表彰がありました。第2部の通常総代会では、総62名の総代のうち58名が出席し、2007年度の監査報告書と事業報告、決算案の承認、剰余金の処理、定款改定、2008年度の事業計画及び予算案といった議案について討議、承認を行いました。最後に「iCOOP10周年記念宣言」が採択されました。宣言では、協同組合運動の精神と伝統に触れ、「倫理的消費による人間らしい暮らしを！」を組合員、役職員、生産者が共に実現するよう今後の運動を進めるというiCOOP生協連合会としての意思表示が出されました。なお、今回の総代会では、今までの組織の名称「韓国消費者生活協同組合連合会」を「iCOOP消費者生活協同組合連合会（略称：iCOOP生協連合会）」に変更することが承認されました。iCOOP生協の認知度と組織内の統一性を高めるため、今後会員生協でもiCOOPを付けるように定款の改定を進めることも確認されました。総代会の終了後は茶話会を開き、2008年度の生協運動の 대중化に向けてさらなる努力を注ぐことを決議しました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=2&number=1160&keyfield=&key=&no=300&fid=305&thread=A>

### 「日韓共同シンポジウムラムサールCOP10と田んぼの生物多様性」が開かれました

2月19日、iCOOP生協連合会と日本の田んぼの生きもの調査プロジェクトは、ソウル市のプレスセンターにて「日韓共同シンポジウム - 第10回ラムサール条約締結国会議と田んぼの生物多様性」を開催しました。このシンポジウムは、韓国昌原市で行われる第10回ラムサール条約締結国会議（10月28日～11月4日）をきっかけに湿地としての水田の重要性と田んぼの生物多様性に関する認識を拡大させ、GOとNGOの活動の共有を図るためです。会場には、生産者、組合員、環境団体、関連研究者、農林部や環境部関係者など約100名が参加しました。

#### \* 報告

##### 【韓国】

「田んぼの生物多様性とラムサールCOP10に対する対応」朴仁子（iCOOP生協連合会水田湿地研究会代表、iCOOP晋州生協理事長）

「韓国の農業生態系と生物多様性戦略」李徳培（農村振興庁研究開発局研究管理課総括チーム長）

##### 【日本】

「ラムサールCOP10と日本NGOの対応」岩淵成紀（NPO法人田んぼの理事長）

「田んぼの生物多様性を育むための生協の取り組み」、田崎愛知郎（田んぼの生きもの調査プロジェクト事務局長）

#### \* 討論

「ラムサールCOP10の重要性と準備状況」李仁植（ラムサール民間推進委員会運営委員長）

「ラムサールCOP10に向けての韓国環境部の対応方針」尹ヨンヒ（環境部ラムサール企画団

事務官)

「ラムサール COP10 に向けた農林部の対応方針」李ホンフン(農林部農村基盤整備課長)

「田んぼの生物多様性を育むための生産者の取り組み」朱ジョンサン(洪城プルム生協米生産部会長)

「ラムサール COP10 とラムサール NGO ネットワークの活動」ハンドウク(PGA 生態研究所所長)

当日のシンポジウムに際してはマスコミの関心も多く、全国版のハンギョレ新聞や江原日報、インターネットニュース「GONEWS」に掲載されました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=1187&keyfield=&key=&no=307&fid=312&thread=A>

## 【韓国女性民友会生協 <http://www.minwoocoop.or.kr>】

### 「第9回通常総代会」を開催しました

2月16日、韓国女性民友会生協の第9回通常総代会がソウル女性プラザにて開催されました。参加者は、105名の総代と生産者、来賓合わせて約140名でした。第1部は記念式及び表彰式で、2007年の1年間、最も組合員拡大に寄与した組合員、一生懸命活動した組合員、活発に活動した委員会やクラブ、最も多く利用した組合員、1年間毎週休まずに利用した組合員、良いウェブサイト運営した組合員など、組合員の表彰がたくさんありました。和気あいあいとした記念式の後、第2部の通常総代会が始まりました。総代会では、2007年度活動評価及び決算(監査報告書、剰余金の処理)、定款改定、第3期中長期発展計画、2008年活動計画と予算、借入金の最高限度額、洪城プルム生協との交流協約に関する各議案が討議、承認されました。

2008年度の事業方向は

1. 運動と事業を拡大し、自治力を高める：組合員3,000名純増、利用高114億ウォン
2. 地球温暖化の防止に役立つ多様な活動に取り組み、地域コミュニティへ広げる
3. 女性民友会生協のビジョンをより具体化させ、第3期中長期計画を实践する
4. 生協運動の人材開発システムを作る
5. 連帯事業：アジア姉妹会議、生命平和環境農業大祭り、協同組合企画講座等

### マウルの集いのうち、「衿川マウルモイム」を紹介します

女性民友会生協の組合員同士の基礎グループは、マウルモイム(マウルの集い)。マウルは昔の村のことであり、今日は同じマンションに住んでいる住民社会や近隣同士のコミュニティのことも指しています。2月のマウルモイムのうち、ソウル市の衿川マウルモイムの様子を紹介します。2月26日には組合員6名と子どもたち12名、職員2名がある組合員の自宅に集まりました。テーマは、ベトナム包み作り、通常総代会参加の感想、暮らしの情報交換など。みんなで作った料理を頂いた後、最後に「組合員宣言文」を一緒に朗読して会を終えました。

[http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo\\_table=event\\_act&wr\\_id=421](http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=event_act&wr_id=421)

## 【生協全国連合会 <http://www.co-op.or.kr/>】

「親環境農産物消費促進を図る社会協約調印式」が行われました

2月12日、会員生協のドゥレ生協連合会は、全羅南道求礼郡、(株)セロム食品、ウリミル加工工場、ウリミル生産者協議会とともに「親環境農産物消費促進を図る社会協約調印式」を行いました。主にウリミル(国内産小麦)の生産、加工、消費の過程で協力体系を構築することが目的で、求礼郡の45名の生産者と契約栽培したウリミルを(株)セロム食品が加工し、ドゥレ生協連合会に納品するという内容です。<http://www.dure.coop/>

#### 「社会的経済と協同組合運動の展望」討論会を開きます

2月29日、会員組合の韓国医療生協連帯(旧医療生協特別委員会)は、「社会的経済と協同組合運動の展望」という討論会を開く予定です。韓国では2006年社会的企業育成法が制定され、2007年には2回にわたって55の団体や法人が社会的企業として認証されました。その中には原州医療生協、大田タンポポ医療生協も含まれています。今回の討論会は、社会的経済の実現の方法として社会的企業育成法の可能性を探り、医療生協の経験からその役割を展望し、社会的協同組合運動の発展展望を議論する場として設けられました。

#### \* 報告

社会的経済-「社会的企業の発展方向と市民社会の役割」文ボギョン(社会投資支援財団事業支援チーム)

「医療生協の経験からみた社会的協同組合運動の発展展望の模索」崔ヒョンジン(原州医療生協理事)

#### \* 討論

「政府の社会的企業育成政策の方向」権グヒョン(労働部社会的仕事作り政策チーム)

「社会的企業認証の手続きと考慮すべき点」チョビョンミン(大田タンポポ医療生協事務局長)

「社会的協同組合運動の発展への展望」ハンサルリム

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=coop&sno=145>

### 【ハンサルリム <http://www.hansalim.or.kr>】

#### 季刊「サルリム物語」を創刊しました

2月27日、ハンサルリム運動の様子をより深く伝える季刊誌「サルリム物語(=暮らし、生かすという意味)」が創刊されました(4,500ウソ)。過消費、景品文化、過剰包装など消費生活の問題点を生々しく現場取材して指摘、健全な消費文化への代替案を提示するなど、組合員の暮らしを見直せるようなオルタナティブ的暮らしに関する記事や環境、教育、産直などの情報を満載した生活文化誌です。組合員向けで販売され、その販売利益は、ハンサルリム農業基金など公益的目的に使用します。<http://www.hansalim.or.kr/>

#### 編集後記

2月は(旧)正月連休に、各生協連合会の通常総代会に、慌ただしい一ヶ月でした。韓国では卒業式があって、別れと新しい出発を準備する月でもあります。3月から新年度の事業も本格的に稼働します。いよいよ春が来ますね!さて、誠に勝手ながら、次号は4月末に送信させていただきます。中学校を卒業する娘と春休みの旅に出ることになりました。次回は、その報告まで兼ねてお送り致します。

(文責及びお問い合わせ:iCOOP生協連合会 国際チーム 金亨美 [chleekim@yahoo.co.kr](mailto:chleekim@yahoo.co.kr))